

日刊 勤労千葉

82・5・31
No. 1057

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(電話)二九三五六・六八〇〇 日刊(22)七二〇七



木更津支部、あいつに立つ支部長。(5月26日)

五月二六日、支部全組合員は四九名中勤務以外三九名が参加して、木更津支部職場集会在開催されました。現情勢を正しく直視し、今われわれが、何を闘い、誰が敵なのか、そしてなによりも、国鉄労働者にかかけられている権力・革マル一体となつての刑事弾圧、職場慣行・既得権剝奪攻撃、第二マル生攻撃に、正面からの反撃にうってでる、このことの重要性を、勤労千葉本部から、山口副委員長・吉岡組織部長を迎え、その具体的な闘いを構築すべく集会をかちとりしました。

木更津支部通信員・発

「組合の存在をかけて闘うとき」――荻込支部長あいつ――

木更津支部は、五〇名たらずの小さな支部であるが、あらゆる闘いに各支部を牽引し、その迫力と動員数は、全支部から手本とされるほどの、抜群の団結力と行動力を、全員の誇りとしています。だからこそいかなる反動攻撃があろうとも、それに抗する実力を保持しているのです。

保坂支部副委員長の司会で集会をはじめました。冒頭、荻込支部委員長は、「今日の『ヤミ・カラ』『タルミ』キャンペーンのもとで、これまでわれわれが闘い続けてきた職場慣行・既得権を一方的に剝奪する攻撃は許せない。国労・動労中央は『正すべきは正す』という方針しか提起できず、特に動労中央は『働こう運動』なる反労働者的方針をもって労働者の権利を売りわたしている。勤労千葉は今こそ労働組合運動の存在価値をかけて、これと対決していこう」とあいさつしました。

六・五労働者集会を成功させ反撃にうって出よう

つづいて勤労千葉本部山口副委員長より、「今日、政府支配者は軍事大国化・改憲にむけて国鉄労働運動解体と二期攻撃をもってする三里

塚闘争破壊という二つを焦点にして攻撃をかけてきている。五月十七日臨調第四部会の中問答申がだされた。国鉄当局は、臨調の当面する『緊急措置』十二項目を先どり強行すれば、民営・分割は、避けられるかもしれない立場をとっている。それは勤労千葉に対する三・二七不当捜索、『本部』革マル反動分子のタレコミによる六名への任意出頭・刑事弾圧攻撃と一体化している。こうした中で、全国の国鉄労働者は、危機感と怒りをたかめている。勤労千葉は、六・五労働者集会を開催し、六・五を期して臨調攻撃粉碎、第二マル生・既得権剝奪粉碎をかけた職場からの反撃に決起していこう」と方針が提起されました。

集会は、このあと組合員から多くの発言があり、特にこの間の既得権剝奪攻撃への怒り、勤労「本部」革マル反動分子の「働こう運動」への怒り、そして、「本部」派組合員は「働こう運動」の方針に疑問を感じないのだろうか、等という卒直な意見が集中して出されました。継続集会は十六時までつづけられ、最後に、六・五労働者集会成功にむけて、駅頭ピラ、地区労働傘下労働組への要請等、具体的闘い取組みを組合員一丸となり、総決起体制で貫徹すること全体を確認し、散会しました。

6・5労働者集会

第二臨調基本答申粉碎！
国鉄労働運動解体攻撃粉碎 勤労千葉への不当弾圧許さず三里塚二期着工阻止

中野洋三
千葉市民会館
6月5日 17:30

取場慣行・既得権を守りぬくぞ！ 木更津支部で取場集会

5/25 つり大会

南信 於栗山川

五月二五日、サークル協主催のつり大会(フナ)が、栗山川において開催され、各支部から二二名が参加しました。成績はつぎの通りです。

☆優勝 川辺勝雄(佐倉) 二K九〇〇g
準優勝 梅沢利男(千葉転) 一K六五〇g

☆大物賞 鈴木日出夫(佐倉) 三三三センチ
☆B・B賞 服部増夫(津田沼)

☆敢闘賞 宍倉康二(佐倉) 大根洋一(佐倉) 和田 義明(佐倉) 黒川重雄(幕張) 相原照二(千葉転)

- 三位 西川 経夫(幕張) 一K三五〇g
- 四位 笠井 哲二(津田沼) 一K
- 五位 大木 孝(〃) 八〇〇g